

日野鳥発第 2018-026 号
平成 30 年 7 月 9 日

株式会社ユーラスエナジーホールディングス
代表取締役社長
稲角 秀幸様

日本野鳥の会秋田県支部
支部長 佐藤 公生
秋田県潟上市天王追分 86-15

公益財団法人 日本野鳥の会
理事長 遠藤 孝一
東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
(公印省略)

**「(仮称) 笹森山風力発電事業」建設予定地である
笹森山周辺に生息する希少鳥類の保全に関する要請書**

貴社が計画されている「(仮称) 笹森山風力発電事業」(仮称)について、下記の理由から対象事業実施の見直しを要請します。

記

本事業計画区域である小友峠を中心とする竜馬山、笹森山、東光山、日住山、鬼倉山を含む笹森丘陵一帯は、津軽から鳥海山を経由して東南アジアに抜ける猛禽類および一般鳥類の渡りルートであるとともに、シベリアから日本各地に飛来する冬鳥の渡りルートとが交差する非常に重要な拠点です。海岸から非常に近い緑地帯であることから、鳥が休息して栄養を補給するためにはなくてはならない中継地点になっています。ここを阻害することは日本を通過する渡り鳥に甚大な影響を与えることになります。

図1と図2は、環境省が発行しているアセスメント用データベースから引用し加工したものです。図1における青線が、ワシタカ類(ハチクマ等)の渡りルート、赤線がガン・ハクチョウ類の渡りルートであり、笹森山を中心とする由利本荘市周辺の丘陵地帯はこれら渡りルートが交差する極めて重要な地域です。また、図2に示すように、鳥海山周辺の由利高原・にかほ地域から由利本荘市内の海沿いの丘陵地帯にはすでに多数の大小の規模の風力発電施設が林立し、さらに今後多数の事業計画が進行中です。この上さらに、本事業で笹森山周辺の建設が実現すると、岩城から由利高原、にかほ高原に連なるまとまったエリアを風車で包囲する状態になってしまい、障壁影響や生息地放棄の発生により渡り鳥の飛行や生息の大きな妨げになることが予想されます。鳥類を始めとする自然保護の観点から、本事業

業計画区域は対象立地として適切ではないと言わざるを得ません。

さらにこの一帯は、渡り鳥のコースという側面だけでなく、笹森丘陵を中心として貴重な里山環境が維持されているため、希少猛禽類であるクマタカ、ハチクマ、サシバ、オオタカ、ハイタカ、ツミ、ミサゴ、ハヤブサ等が繁殖する生物多様性にとっても重要な地域であります。市街地近傍でこれだけ多くの猛禽類が同時に観測できる地域は、全国的に見てもあまり例がない価値の高い地域であり、現在のままの状態で保全することが必要です。

とりわけ絶滅危惧種であるクマタカに関しては、笹森丘陵を中心に、鳥海高原、本荘市石脇地区、権現山周辺を結ぶ広大な範囲に多くのつがい繁殖している可能性が高く、特に笹森山周辺はこれら繁殖域の中心に位置します。クマタカの飛翔は日常的に観測され、今年（平成30年）3月には生後1年目の幼鳥も確認されており、特に重要な地域と考えられます。雄物川と子吉川で囲まれた図2の破線で囲んだ内側の領域は環境影響が甚大であり、これ以上の開発をすべきでないと考えています。



図1. 秋田県における鳥類渡りルート 図2. 笹森山周辺の主な開発計画

以下に、本事業でおびやかされる鳥類の生息について、具体的にまとめます。

渡り鳥への脅威

本事業計画区域は日本海沿岸から約10キロメートル内陸を南北に走る笹森山を中心とした標高300～600メートルの丘陵地帯の中心に位置し、日本海側から内陸方面に向けて鳥が移動する場合、越えるべき最初の山塊になります。この山の稜線上に最大170メートルの風車がおよそ6キロメートルに渡り20基建つことは、この山域の標高を格段に上げることになり、鳥たちに大きな負担を強いることになるだけでなく、風車の間をすり抜ける場合は衝突の危険性が生じます（バードストライク）。逆方向に移動する場合も同様です。このよう

にこの一帯でもっとも標高の高い区域に多数の風車を建てることは、鳥たちの飛行ルートを分断することとなり、飛翔空間や渡りのルートを奪うこととなります。

また、大潟村から能代平野に至る水田地帯で越冬する数万羽のマガン、ヒシクイ、ハクガン、シジュウカラガン、ハクチョウ等は厳寒期には積雪の少ない由利本荘市の水田地帯に飛来します。本事業計画地域はその移動ルート上にあり、多数の群れが行き来するので、風車群がこれら希少鳥類の移動の障害となります。水鳥だけでなく、オジロワシ、オオワシ等の希少猛禽類も同じように脅威にさらされます。

絶滅危惧種クマタカの繁殖への脅威

本事業計画区域には絶滅危惧種クマタカの生息が確認されています。どの鳥類も同様に貴重ですが、クマタカは地域の生態系および食物連鎖の頂点に位置しているため、生息環境の生物多様性や自然度の指標になり、この地域が動物の生息環境としてかけがえのない場所であることを示しています。

クマタカは、特に繊細で警戒心が強い猛禽類であり、しかも繁殖活動は、数年に一度1羽ずつ雛を育て、幼鳥が独立するまで1年間は給餌する習性があるほか、繁殖場所への執着が強く、繁殖環境が変化すると繁殖活動そのものをやめてしまうことが知られています。したがって、本事業の調査から建設、稼働までのすべてのプロセスにおいて種の存続を脅かす影響を受ける可能性が非常に高いと言わざるを得ません。

本事業計画区域は、人工林、貴重な天然林および広葉樹の二次林により、クマタカの生息をぎりぎり支えられる環境が長年保たれてきました。本事業区域の風力発電機設置位置にはこの貴重な天然林が含まれており、これが伐採されるとクマタカをはじめとする鳥類、動物に多大な影響を及ぼすこととなります。また、建設や資材運搬のための既存の林道の大幅な拡幅、または新規建設用道路建設により、まとまった森林が分断され繁殖活動に重大な影響を及ぼすと考えられます。

風車への衝突（バードストライク）については、クマタカは風車に近接した飛行をすることが観察されており、この理由として風力発電所の建設にともなう草地・林縁の創出がウサギを主食とするクマタカの採餌行動を惹きつけている可能性が指摘されています（中津 弘、平成18年 風力発電施設が鳥類に与える影響に関する国際シンポジウム）

猛禽類においては、回転する風車に近接すると回転するブレードの像が網膜上でブレを起こし（モーション・スミア）、回避が困難になる可能性が指摘されており、ディスプレイ飛行や採餌行動で他個体や獲物に注意を奪われている場合には衝突事故の危険性が上がるとされています。これらに加えて、笹森丘陵は年間を通して霧に覆われることが多く、特に繁殖の重要な時期である冬期には視界が悪化することによってさらに衝突の可能性が高まります。なお、他事業で「クマタカに対する配慮」として挙げられている「ブレードの塗装」は効果が疑問視されていることを念のため申し添えます。

希少鳥クマタカは、たとえ1羽の死亡であっても個体群の存続に対して致命的なダメージを与えます。衝突に至らないとしても、採食活動の大きな障害になり、今後この地域を忌避し繁殖地として選ばなくなり、絶滅にみちびく結果となります。

このように世界的に見ても貴重な渡りルートと希少鳥類繁殖地域に巨大風力発電施設を建設することは、後世に大きな汚点を残す愚かな行為と言わざるを得ません。

以上述べた通り、本事業は渡り鳥と希少鳥類の生息に大きな影響を及ぼす可能性が非常に高く、風力発電施設の建設には不適切な場所であることは明らかです。調査を行うまでもなくすぐに選定位置の見直しを行うべきです。

ついては、貴社が今一度熟慮され、「(仮称) 笹森山風力発電事業」の計画を見直されるよう、強く要請します。

本要請に対し事業見直しを真摯に検討し、8月15日までに検討結果を日本野鳥の会秋田県支部と公益財団法人日本野鳥の会に回答することを求めます。

以上